すまいる Smile

切って、貼って 楽しんでリハビリ

Vol.57

末廣　ヒトミさん
（今津町在住）

自身の脳梗塞のリハビリから「切り貼りアート」を考案。元看護師としての経験を生かし、ボランティアとして指導している。高齢者施設で活動するほか、市内施設で週に数回教室を開催している。

切り抜いた綺麗な色紙に、さらに他の紙を切って貼り付け、自分オリジナルの作品に仕上げる『切り貼りアート』。高齢者施設の入所者に作品作りを指導する末廣さんの周りでは、思い思いの色紙を貼り付ける皆さんの楽しそうな笑顔が広がります。

42年間、看護師として病院に勤めていた末廣さん。4年前に脳梗塞を発症し、その後に2度の再発。奇跡的に大事には至りませんでしたが、右手の小指にまひが残り、物がつかみにくくなる後遺症が残りました。特に薬の袋を切るなどのはさみを使った動きがしづらく、ポストカードなどをたくさん切りとる作業を続けました。退院後、職場の中で自分でもできることはないか探していた所に、色紙を切って季節のイベントの飾りなどを作り壁に飾っているのを見つけ、自分が作らせて貰うようになります。それがきっかけとなり、切り抜いた紙の上にさらに他の柄の紙を重ねて立体感を出したり、上からひもやキラキラした粉をつけるなど、いろいろなアレンジを加えて作品にすることを思いつきます。多くの作品を夢中で作るうちに、動かしにくかった右手が随分動かせるようになっている事に気付き「これなら手軽にできて、事前にある程度の準備をすれば、高齢者や認知症の人にも作れるのではないか」と思い立ちます。一昨年の11月に退職した後、昔からお世話になっている地域の人に恩返しができればと、昨年の5月から高齢者施設でのボランティアを始めました。最初は興味がなさそうにしていた人でも、手を添え、一緒に作品を作っているうちに、自分から積極的に参加してくれるといいます。

参加者の喜ぶ作品の構想、企画を日夜研究する末廣さんは「作っている皆さんに楽しんでもらい、笑顔を見せてもらえることに、本当に元気を貰っています。作品を作る皆さん自身が、少しでも嬉しい、という思いになってもらえたら」と生き生きとした表情で語ってくれました。

▼高齢者施設で作品作りを指導する末廣さん

▲楽しく作品作りを行う参加者

▲高齢者施設で作った見本作品